

Q つるがしま中央交流センターの今後

たかはし けんじ
高橋 剣二 議員



A 地域主体の活力創出拠点であり、市も連携していく

問 住民による地域づくりの基本姿勢は。

答 市民の地域づくりへの参加は、本市のまちづくりの活力源であると考えている。

問 交流センターの位置付けについて。

答 法人化した自治会が施設を自主運営していくという自立性のほか、官民協働とコミュニティレス

トランによる交流などの先導性を持つ新たな地域の活力創出拠点になっている。

問 モデルケースとなるための仕組みづくりについて。

答 スペースの貸付けによる自主財源の確保や複合施設の取組のほか、市民により近い場所にあるコンパクトなコミュニティ施設で行政が事業を展開していく手法は、



つるがしま中央交流センター（くれよん）

問 先駆的な取組である。

答 交流センターの活用について。

問 自治会や地域支え合い協議会の事業のほか、多くの市民に利用していただくことにより、施設の効果を更にも高めることができる。

問 交流センターの内外の整備や設備の充実について。

答 要綱に基づき整備費用を補助するほか、市が事業等を実施する上で必要となる整備等については、別途協議する。



Q 街路樹の老朽化対策について

まつお たかひこ
松尾 孝彦 議員

A 安全面・管理面などを考慮し、間伐作業を進める

問 現状と課題について。

答 大木化・老朽化した街路樹は、植栽されている幹線道路のうち、19路線に見られる。歩道の隆起や枯れ枝の落下などの苦情も多くなり、枝の強剪定などを行ってきた。3年前からは、安全面・管理面などを考慮し、松ヶ丘地区から順次、間伐作業を進めている。

課題としては、強剪定により本来の樹形を損なったケヤキが沿道の景観を損なっていること、樹幹の肥大化により、見通しに支障が生じていることや幅員が狭小化していること、剪定、伐採及び処分

に多額の管理コストがかかること、植樹柵に残った切り株の抜根には、



歩道や車道まで影響が及ぶ大規模な修繕工事が必要であること、強風による倒木の危険度が高まっていることなどが挙げられる。

問 今後の維持管理計画と取組について。

答 街路樹の大木化対策として、ケヤキの間伐作業を実施しており、松ヶ丘・南町地区の作業終了後は、脚折町地区の作業を計画的に行いたい。また、他の樹種についても生育状況を確認しながら維持管理の方法を検討していく。

◎その他の質問

- 一 食品ロス削減の取組について
- 二 投票機会の確保について